

「2012年3月期決算」に関する機関投資家・アナリスト向け説明会  
ご説明内容

開催日：2012年5月14日、スピーカー：取締役社長 西澤俊夫

【はじめに】

- 引き続き、福島第一原子力発電所における事故により、社会の皆さまや立地地域の皆さま、また、株主、投資家の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、心より深くお詫び申し上げます。
- 本日発表いたしました2012年3月期決算について、資料をもとにご説明させていただきます。
- 決算説明会資料のスライド1をご覧ください。

【P1~2 決算のポイント】

- ここでは、今回の決算のポイントをご説明いたします。2ページの表とあわせてご覧下さい。
- まず決算の概要についてですが、売上高は、販売電力量が減少したことなどにより、連結では前年比0.4%減の5兆3,494億円、単独では0.7%減の5兆1,077億円となりました。
- 一方、費用面では、人件費や修繕費が減少したものの、燃料費が増加したことなどから、連結の経常費用は13.2%増の5兆8,020億円、単独では13.4%増の5兆5,927億円となりました。これらの結果、経常損益は連結で4,004億円の損失、単独では4,083億円の損失となりました。
- 当期純損益については、原子力損害賠償支援機構法に基づく交付金や、固定資産および有価証券の売却益を特別利益に計上した一方、災害特別損失や原子力損害賠償費、有価証券売却損を特別損失として計上したことなどから、連結で7,816億円、単独では7,584億円の損失と、極めて厳しい数字となりました。
- なお、総合特別事業計画でお示した2012年3月期の収支は、推定実績を用いて算出していることから、本日の決算の数字とは異なっておりますので、ご注意をお願いいたします。
- 次に、2013年3月期通期の業績見通しについて、ご説明いたします。当社単独については、基本的には9日に認定をいただきました総合特別事業計画の2013年3月期の収支を前提としております。
- まず、売上高については、料金改定や販売電力量の増加などにより、電気料収入の増加が見込まれることから、連結で前年比12.6%増の6兆250億円程度、単独では14.4%増の5兆8,450億円程度となる見通しです。一方費用面では、原子力発電の減少などにより、燃料費の増加などが見込まれます。
- これらにより、2013年3月期の経常損益は、連結で3,550億円程度の損失、単独で3,750億円程度の損失、また当期純損益は、連結で1,000億円程度の損失、単独で1,050億円程度の損失になるものと見込んでおります。
- スライド3をご覧ください。

### 【P3 販売・発電】

- 2012年3月期の販売電力量ならびに発電電力量の実績ですが、販売電力量の薄い網掛け部分をご覧ください。お客さまの節電へのご協力や、生産活動の落ち込みがみられたことなどにより、前年比8.6%減の2,682億kWhとなりました。
- 2013年3月期の見通しにつきましては、景気回復が見込まれることなどから、前年比1.5%増の2,723億kWhとしております。
- 販売電力量に関する詳細データはスライド29、30を後ほどご覧ください。
- 次に、スライド4をご覧ください。

### 【P4 対前年度比較、P5 対前回予想比較】

- このページでは前年度実績との比較で、単独ベースでの収支実績の増減要因分析を行っております。
- 修繕費や人件費をはじめ、あらゆるコストを徹底して削減したことなどにより、合計で3,200億円程度の好転要因はあったものの、電気料収入の減少や、原子力発電の減少などに伴う燃料費の増加などにより、合計で1兆円程度の悪化要因があったことから、経常損益は、6,794億円の悪化となりました。
- 当期純損益については、前年に多額の計上を行った災害特別損失の反動減などにより、5,001億円の改善となりました。詳しくは後ほどご覧ください。
- また、スライド5では、2月13日に発表しました前回予想との比較をお示ししておりますので、詳細は後ほどご覧ください。
- スライド6へお進み下さい。

### 【P6 特別利益・特別損失】

- このスライドでは、震災影響による特別損益について、まとめてお示ししておりますが、まず、特別損失からご説明いたします。
- 災害特別損失については、火力発電所や流通設備等の被害に伴う保険金の受け入れなどにより、第3四半期決算から144億円減少し、2,974億円となりました。
- また、原子力損害賠償費については、第3四半期決算の1兆6,445億円から8,804億円増加し、2兆5,249億円となりました。このほか、有価証券売却損427億円を特別損失として計上しております。
- 上に戻りまして、特別利益ですが、原子力損害賠償支援機構資金交付金が第3四半期決算から8,459億円増加し、2兆4,262億円となりました。
- このほか、有価証券売却益の500億円、固定資産売却益の411億円を、特別利益として計上しております。
- なお、資金交付金と原子力損害賠償費の差額986億円につきましては、2013年3月期中に資金交付申請を行う予定で、当該金額が2013年3月期に特別利益として計上される見込みです。
- 続きまして、スライド7をご覧ください。

#### 【P7～8 通期業績予想】

- ここでは、冒頭でも簡単にご説明しました、2013年3月期の通期業績予想につきまして、その見通しの前提や、主な増減要因についてお示ししております。
- 業績予想の前提ですが、販売電力量は、先ほどご紹介のとおり 2,723 億 kWh とし、原油 CIF 価格は、1 バレル 110 ドル程度、為替レートは、1 ドル 80 円程度と想定いたしました。また、原子力設備利用率については、ゼロとしております。
- 対前年実績での増減要因分析につきましては、スライド 8 で詳細にお示ししておりますので、後ほどご覧ください。
- 続きまして、スライド 9 をご覧ください。

#### 【P9 配当政策・予想】

- 配当についてご説明いたします。2012年3月期につきましては、極めて厳しい収支状況に鑑み、誠に遺憾ながら、中間・期末とも「無配」とさせていただきます。
- また、2013年3月期につきましても、中間・期末とも「無配」の予想としております。
- 当社では、株主の皆さまへの利益配分を、経営の最重要事項の一つと認識しております。しかしながら、東北地方太平洋沖地震以降の極めて厳しい経営環境に鑑み、現在は配当の基本方針を取り下げております。
- 新しい配当の基本方針につきましては、今後の状況に応じて、あらためて検討する予定です。
- 皆さまには株価の大幅な下落に加え、配当についても大変なご迷惑をお掛けしておりますことを、改めて深くお詫び申し上げます。
- 次にスライド 10 へお進み下さい。

#### 【P10 燃料消費実績】

- このスライドでは、燃料の消費量実績および見通しをご紹介します。
- 原子力が停止した影響などから、2012年3月期のLNGの消費量実績は、通期として過去最大となる 2,288 万トンに達しました。
- 2013年3月期の燃料消費量見通しですが、原子力プラントの稼働をゼロと見込んでいることから、LNG は前年を上回る 2,327 万トン、石油は 1,198 万キロリットル程度と、さらに消費量が増加する見込みです。
- 詳しくは、後ほどご覧ください。
- 次に、スライド 11 にお進み下さい。

#### 【P11～12 福島第一中長期的ロードマップの概要】

- スライド 11 から 12 では、福島第一原子力発電所 1～4 号機の廃止措置等に向けた中長期ロードマップの概要をお示ししております。
- 詳細のご説明は割愛させていただきますが、ロードマップにお示した内容に基づいて、引き続き、プラント安定状態の確実な維持、および廃止措置に向けた着実な取り組みを進めてまいります。
- 続きまして、スライド 13 へお進みください。

#### 【P13 経営合理化方策】

- このスライドでは、先に公表いたしました、総合特別事業計画でお示した、経営合理化方策について、まとめて紹介しております。従前の緊急特別事業計画記載の内容からさらに深掘りを進めたもので、「コスト削減」、「設備投資削減」、「資産売却」に分けて、お示ししております。
- 方策の詳細につきましては、後ほどご覧ください。
- 次にスライド 14 をご覧下さい。

#### 【P14～15 料金改定】

- スライド 14 から 15 では、今月 11 日に経済産業大臣に申請いたしました、規制部門の料金値上げにつきまして、背景と概要、原価計算の前提などをお示ししております。
- 2014 年度までの 3 年平均の総原価につきましては、2013 年度以降、柏崎刈羽原子力が順次再稼働するという前提を置き、さらに合理化による圧縮分 2,785 億円を織り込みましても、5 兆 7,231 億円に達する見込みです。
- 2008 年改定の料金単価をもとに計算される収入は 5 兆 468 億円ですので、差し引きで、年平均 6,763 億円程度の収支不足が見込まれるという、極めて厳しい状況にあります。
- このため、早急な赤字構造の改善に向けて、「経営合理化の徹底」等を大前提として、このたび、規制部門で 10.28%の値上げ申請を行いました。
- なお、自由化部門は今回の総原価計算の結果を反映すると 16.39%の値上げとなります。
  
- このあとのスライドでは、2012 年 3 月期決算に関する詳細データ、福島第一原子力発電所の現状と取り組み、そして柏崎刈羽の現状と取り組みについて紹介しています。後ほどご覧下さい。
  
- 私からは以上です。

【取締役社長 西澤俊夫からのご挨拶】

- 最後にも、私から一言申し上げます。アナリストの皆さま、投資家の皆さまをはじめ、市場関係者の皆さまには、IR担当の常務時代からこれまで4年間、様々な場面でお世話になりました。あらためまして、御礼を申し上げます。
- 私自身、この一年間、微力ながら多くの厳しい課題に全力で取り組んでまいりましたが、今なお、原子力発電所の廃止措置、損害賠償、安定供給の確保、さらには徹底した合理化など、一刻の空白も許されない未解決の課題が多く残っております。
- しかしながら、私自身は退任までの、その日まで、引き続き、全力で取り組んでまいりますが、新体制の下でも、新社長のもと、しっかりと社員一丸となって、「ゼロからの再出発」という覚悟、そして、「もう後はない」という危機感と責任感を持って、前向きに取り組んでくれるものと考えております。
- 新しく社長に就任します、廣瀬に対しましても、引き続き、変わらぬご支援を賜れましたら幸いです。誠にありがとうございました。

以 上